

令和3年 **6**月の大阪森林便り

目次

 **今月の木の話** **巨樹の樹種別順位** **巨樹日本一はクスノキ** **樹高の最高はスギ**

- (1)  国産材、問屋通さず購入 戸建て分譲各社、共同で
- (2)  輸入合板 国産木材で代替 大建工業、価格上昇で検討
- (3)  住宅用集成材が最高値 米発「ウッドショック」広がる



今月の木の話

巨樹の樹種別順位

巨樹日本一はクスノキ 樹高の最高はスギ

*わが国で最大の巨樹は、鹿児島県蒲生町八幡神社の「蒲生の大クス」。

・幹回り 24.2Mの国の特別天然記念物。

*巨樹のベストテンの9本がクスノキ。

*スギの日本一は屋久島の「縄文スギ」の16.1M。

*ケヤキの日本一は福島県猪苗代町の「天子のケヤキ」の15.4M。

*樹高では、

・1947年測定 宮崎県椎葉村 椎葉の神杉 72M

・1982年測定 長野県南木曾町 八剣社の大杉 64M

・2002年測定 愛知県鳳来町 鳳来寺山の傘スギ 63M

(2008年発刊 (社)大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)

(1)  **国産材、問屋通さず購入 戸建て分譲各社、共同で
低価格で安定調達めざす**

*複数の関東の戸建て分譲会社が、国産材を製材会社から直接共同で購入する仕組みを作りました。

・3社で4月13日に日本木造分譲住宅協会を設立。

*国内の木材市場のうち、輸入品は6割のシェア。

*3社が必要な製材品を一括購入。東北材を使用。

*提携したプレカット工場に加工させ、3社が引き取る仕組み。

*柱に杉、土台に桧、梁にはカラ松を使用。

*3社の2021年の国産材使用料は、1か月で約8175M3。

*輸入材を含めた全国の製材品の出荷量は、平均で毎月約70万M3。

*足元では輸入材の価格が高騰する「ウッドショック」が広がり、国産材も需給が引き締まります。

*各ハウスメーカーが木材集めに奔走する中、同協会はずでに年間使用分を確保。

(2021年5月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2)  **輸入合板 国産木材で代替**

大建工業、価格上昇で検討

*大建工業は輸入合板の価格上昇を受けて、国産木材による代替材の生産を検討。

*生産コストは上がりますが、輸送などの費用を含めるとほぼ同じとみます。

*北海道産のトドマツを使用します。

*ラワン合板2.5mmの4月の市場価格は、2020年8月に比べ1割以上上昇。

*日本企業は資金力のある中国企業に買い負けることも。

(2021年5月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 住宅用集成材が最高値

米発「ウッドショック」広がる 欧州産原料値上がりで

*米国の活発な住宅着工に伴う木材相場高「ウッドショック」の影響で、集成材が最高値を更新。

*米松製材品も上昇。

*集成平角は前月比 15.4%上昇。集成管柱も 13.3%高。

・欧州産の板材「ラミナ」の対日価格上昇が背景に。

*昨夏から米国で住宅需要が急増し、木材相場が高騰。

*欧州の木材メーカーは、高値で売れる米国向けに増産。

*日本の4~6月期の欧州産ラミナは過去最高値。

*米松KD平角は、前月に比べて 8.3%上昇。

*米国では木材の需要期は夏場。

*国内への入荷不足は続き、価格も上昇基調。

国産材にも波及

*輸入木材の代替需要として、杉やヒノキなどの国産材の流通価格も上昇。

*杉KD昇格は4月と比べ 20.7%高。

*ヒノキKD正角も 11.5%高。

*原木の価格は例年冬場から下がって梅雨時期に最も安くなりますが、今年は上昇が続きます。

*未乾燥の国産材も上昇。杉のグリーン材は 13%高。

*国内木材市場のうち、国産材は4割。

(2021年5月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

